

◎糸魚川市 歴史講座 『糸魚川町と北前船』

糸魚川市文化財保護審議会会長

☆第1回「北前船」とは 目 次

吉 田 信 夫

- 1 定 義
- 2 活動の特徴
- 3 船 型
- 4 船の価格と耐用年数 * 鬼舞・田中九右衛門家の例
- 5 船乗りの階層
- 6 船乗りの給料
- 7 船中での生活
- 8 北前船航路の例 * 鬼舞・伊藤助右衛門家の例
- 9 北前船が変えたもの
- 10 頸城の浦々
 * 廻船主と廻船問屋の違い
 * 糸魚川の北前船・廻船業の記録
- 11 代表的な廻船業者の例
- 12 北前船の終焉

※参考資料

◎糸魚川市 歴史講座

第一回 「北前船」とは 令和8年5月16日

[キーワード]

- ① 買積
- ② 弁財船…大きな一枚の四角帆
- ③ 沖乗り…和磁石 本針と逆針
- ④ 廻船主と廻船問屋の違い
- ⑤ 糸魚川の北前船の記録

[地図と写真]

- ① 北前船寄港地
- ② 船絵馬 (文化八年(1811)加賀・木屋孫三郎 29反帆 1600石積)
- ③ 和磁石 (本針と逆針)
- ④ 出雲崎熊木屋客船帳 (嘉永七年 1854)
- ⑤ 廻船問屋の引札 (廻船問屋が取引先に配布した広告)
- ⑥ 尾道住吉神社 献納玉垣人名 (越後関係部分)

◎糸魚川市 歴史講座

テーマ 「糸魚川町と北前船」

糸魚川市文化財保護審議会会長

吉 田 信 夫

第一回 令和8年5月16日(土) 13:30~15:40 フォッサマグナ・ミュージアムホール

◎「北前船」とは

1 定義

①江戸時代中期(十八世紀中ごろ)~明治三十年代②大阪と北海道を日本海回りで、

③商品を売り買いしながら結んでいた商船群を総称する ※北前船日本遺産推進協議会

*廻船の呼び名

「北前船 KITAMAEBE公式サイト」による

大坂…瀬戸内海から下関を回って日本海へ向かう船を「北前」、その乗組員を「北前乗り」と呼ぶ例がある

北陸地方…廻船を「バイ船」、新潟では単に「廻船」と呼ぶ

「北前船」という呼び名…後世にその語感やイメージで捉えられ、一般的になった

2 活動の特徴

商業活動…「買積(かいづみ)」

各地で買い集めた品物を、有利な土地に運んで高く売る商法

地域間の価格差で利益を上げる

*利益 上り荷…利益大きい(蝦夷地・越後⇨下関・瀬戸内・大坂)

商品…鯨・鯨ノ粕・昆布・米・大豆・干鰯など

下り荷…利益小さい(大坂・瀬戸内・下関⇨越後・蝦夷地)

商品…塩・蠟・綿・砂糖・そうめん・古手・なわ製品・米など

3 船型 弁財(才)船(べさいせん) …通称「北前船」「千石船」

帆走専用の船…大きな一枚の四角帆⇨櫓漕用の水主は不要

瀬戸内の弁財船⇨北前型弁財船…ずんぐりしている

船首船尾の反りが大きく、船底幅広く公式積石より実績積石が大

大きさ…千石船 米を千石積める船(150トン) 積載重量で表現 ※1石=40貫=150kg

全長23M~28M 肩幅6M~7.5M 船底12M~17M 深さ1.5M~2.5M

帆(木綿帆)の反数による表現 千石船…22~24反 帆だけで航海する

1反の幅は2尺5寸(75cm) …例20反の場合は15M

帆の改良 天明五年(1785)織帆の考案…播州船頭工楽松右衛門

帆柱…千石船 元の太さ2.5尺(75cm) 高さ90尺(27M)

舵の改良 横風帆走性能の向上⇨船の横流れを少なくする

舵の面積拡大⇨操縦性向上・船の旋回容易

商品は中央に山に積む…「山をとる」という

乗組員 千石船で12~13人・八百石8~9人・二百石5人

4 船の価格と耐用年数

新造船…価格は千石船で天保期(1830~43) ごろまで千両(1.2匁)

幕末は1.5千両～2千両(1.8匁~2.4匁)

中古船の売買も盛んに行われる…船の大きさや使用年数によって値段が決まる

耐用年数…新造船で20年位 6～7年で小規模修理 12～15年「中作事」(大修理)
新造の半分の経費

[鬼舞・田中九右衛門家の例]

*天保十四年(1843)新造長福丸(後長栄丸) 新潟造り 米1750俵積み
代金 870両余 誠に船繁盛にて大工不足・諸道具高値の記述あり

*文久三年(1863) 新造長久丸 内之浜にて 米2300俵積み

代金 1612両余 諸掛り諸道具共 船頭直乗

*弘化四年(1847) 19年乗り長栄丸を大坂で売却 代金288両 (文久11年1828乗出し)
仲介 難波嶋船屋弥兵衛 口銭支払い

*安政六年(1859)11月より長栄丸 新潟にて上作事 代金268両余

天保十四年(1843)11月 新潟にて合船 16年乗り

万延元年(1860)2月中皆出来 3月15日新潟出帆米1750俵積みの所1870俵積み箱館へ

5 船乗りの階層

船頭…船の最高責任者 船主が船頭の場合は直乗り船頭という 船はお手船という
商才と品位が必要 雇われた船頭は沖船頭という

知工(ちく)…事務長 金銭の出納や荷物の受け渡し担当 長期間の陸泊まり禁止

表(おもて)…船の操縦者 昼夜天候観察・進行方向に細心注意、補佐役は片表

親父(おやじ)…経験を積んだ水夫長、作業の指揮をする

水主(かこ)…一般の船乗り、若衆ともいう

炊(かしき)…船乗り見習い、炊事・雑用担当、14～5歳で初めて船に乗る

★船乗りの雇用…通常は船主の住む地元の村、または近郷・近村から身元引受のある者
遠所の者は保証人が必要

6 船乗りの給料…1年間(約8カ月)の正規給料、非常に安い

船頭…2～3両

知工・表…2両ぐらい 若衆…1両～1両2分 炊…2分程度

★代わりに

*船頭には「帆待ち(ほまち)」の特権…船主の商品以外に船頭個人の商品を積める権利、利益は船頭の収入となる。船全体の利益の10%位。

*水主には「切出し(きりだし)」の権利…歩合給(ボーナス)船の利益の5～10%位。

☆「帆待ち」の意味…船頭は優れた判断力と商才が必要⇒船主の利益と自分自身の蓄財になる。「帆待ち」の特権により航海に真剣に取り組む、安全・迅速な航海を心掛ける。

☆「切出し」の意味…船主の利益が乗組員の収入にひびく、船主が乗船していなくても船乗りたちは船主の利益増大をめざす。船頭個人の荷物のチェックもする。

7 船中での生活

航海中は夜も6時間交代で火事や帆に注意し、仕事中は事故がおきないように睡眠はゆるされない。14、5歳の炊は朝はみんなが寝ているうちに音をたてずに食事の支度をす。米・みそ・薪は船主持ち。副食は船乗り自身の負担で塩・たくあん・みそが中心。飲み水は船尾に積む、航路途中の長く腐らない水(井戸水)の場所を知っている。

普通、船乗りの働く場所は帆柱から後ろのトモの上部、生活する所はその下の胴の間、交代で胴の間に寝て、一度暴風雨になれば、いつでも跳ね起きて帆や舵を上下したり、綱や錨の操作に命をかけて活動した。雨の日は一晩で下帯まで濡れた。

8 北前船航路の例

◎航海に必要な重要な物

往来手形(通行許可証)と船鑑札(営業許可証)…気密性の高い箱に入れておく

☆糸魚川市鬼舞 伊藤助右衛門家 米・塩・砂糖・蠟(ハゼロウ)で大きな利益
[近世後期]

A. 天保10年(1839) 伊栄丸(19反) (※→上り ⇄下り)

3月27日	4月8日	4月21日	5月27日	6月10～12日	6月18～20日
今町⇄新潟・寺泊(米買入)→兵庫(米販売)⇄松永(塩買入)⇄赤間関(蠟買入)					
7月11日～20日	8月16日～		(広島)	(下関)	
⇄新潟(塩ど販売)(米買入)⇄箱館(米販売)(昆布ど買入)→畿内へ[冬囲い]					
☆1年間で 越後～瀬戸内を1往復と越後～蝦夷地～大坂を1航海					

★19世紀中ごろ 越後～兵庫・大坂間は30日台←それまでは3ヶ月位

沖乗りが可能に…夜間航行や陸地が見えなくても沖合い航行・寄港地まで直航可能
進路維持…和磁石利用や表の経験 目印…佐渡島・能登半島・隠岐諸島など

(参考)北前船の時速 平均3.07km 最高9.26km 最低0km…追い風の風力による

B. 弘化2年～3年(1845～46)の伊宝丸

*弘化2年

3月今町(米買入)→4月昧・5月堺・大坂(米販売)(綿・鯉節・塩・砂糖など買入)
⇒6月今町(綿・砂糖など販売)(米買入)→7月 堺・大坂(米販売)(綿・砂糖買入)
⇒7月尾道・松永(椎茸・砂糖買入)⇒7月赤間関(鯉節・生蠟・七島蕨買入)
⇒7月昧新潟(砂糖販売)→8月今町(鯉節・塩・砂糖・七島蕨など販売)(米買入)
→9月 大坂(米販売)(綿・砂糖買入)…[大坂で冬囲い]
☆1年間で 越後～瀬戸内～大坂を2往復半 [大坂で冬囲い]

*弘化3年

2月大坂・堺から下り・尾道・松永を経て新潟へ 新潟から上り・大坂・堺へ
6月大坂・堺から尾道・松永・赤間関(下の関)を経て新潟へ
新潟から上り大坂へ…[大坂で冬囲い] ☆1年間で 越後～瀬戸内～大坂を2往復

[明治期]

◎伊藤助右衛門家…明治期に本格的に北海道進出・近世期とかわらず大規模経営

明治23年(1890) 西洋型帆船2隻・和船4隻所有

*大型の船 8号伊勢丸・2号伊勢丸・伊久丸

新潟⇄小樽の米売買・小樽→瀬戸内・畿内の魚肥売買

*中型の船 伊正丸・伊福丸

新潟県と北海道各地との往復…こまめに何度も行う

*伊吉丸 多様な商品を扱う…北海道～畿内 1年に1往復

9 北前船が変えたもの

*北前船の活動

地域を越えて何でも運ぶ⇄遠隔地間の流通が盛んとなる⇄各地の産物を合わせた産業が盛んになる

北前船の活動は幕藩体制の枠に収まらない、比較的自由的な経済活動であった
廻船業の開業は株は無く自由であった(江戸時代…株仲間は無い)

*生活を変える

衣: 綿・古手⇄裂き織・山形の紅花⇄京都…京染の染料・紅

食: 塩・砂糖・昆布⇄昆布巻・昆布だし・鰯⇄ニシンそば(京都・金沢)

住: 莫産・畳表など

*社会を変える

自給自足に近い社会から江戸後期には商品経済が発達

*北海道の開発を促進する

出雲の鉄⇄高岡の鋳物・鯀釜⇄北海道で鯀ノ粕を煮る⇄上方で肥料として売れる
明治以前稲作はダメ・薬製品(縄・叭・ゴザ)⇄北海道へ(鯀・海産物)⇄上方へ

10 頸城郡の浦々

浦…海に面した村。船主・船乗りはいるが船の入港はない

廻船商人（船持・船頭）は、ほぼ一面に展開

史料に登場する回数の多い地名…糸魚川・鬼舞・青海

能生・鬼伏・梶屋敷・市振が次ぐ

大規模廻船入港…今町・糸魚川（沖止まりではしけ＝伝馬船を利用）

小廻船入港…名立・能生・青海

※「廻船問屋」…陸の商売

仕事…船主と契約し、必要とする積み荷を集める、商品の販売を斡旋（口銭徴収）

商品が売りさばき切れない時は商品を預かる（蔵敷料徴収）販売代行を行う

船頭などの宿となる（船宿） 株仲間組織（新潟港48軒・今町10軒前後）

「客船帳」得意先名簿作成

廻船（船主・船頭）は取引をする廻船問屋は決まっている

利益を元手に土地の集積・海運業・貸家業・金融業など多角経営を行う

◎糸魚川の北前船・廻船業の記録

①尾道港 廻船問屋鱚屋「客衆上下帳」による西頸城の廻船

『県史資料編』

享和元年一月～享和二年一月(1801~02)

諸国から鱚屋への入船1年間で388艘…このうち越後船100艘（1位）

【内訳】糸魚川23艘・鬼舞17艘・押上・梶屋敷・能生 各8艘

鬼伏・青海各6艘・木の浦・市振 各2艘 計80艘

◎鱚屋は多くの西頸城廻船の契約廻船問屋であった

②尾道住吉神社 献納玉垣人名 明治十年(1877)

『県史資料編』

西頸城廻船主14名

越后糸魚川	山本勘四郎	越后糸魚川	寺崎四五右衛門
同	相沢安治郎	同	寺崎長太郎
同	相沢清太郎	同	寺崎彦三郎
同	相沢太四郎	同	多田喜左衛門
同	梶本喜右衛門	越后鬼舞浦	三社丸佐平治
越后青海	渡辺磯七	同	田中兵助
同	渡辺増治郎	同	小林與右衛門
(豊蔵屋)			

③越後寺泊港住吉屋「御客帳」

『県史資料編』

享和元年(1801) 1年間に住吉屋に入船した船の延べ数 越後合計 1634回

西頸城の船	筒石浦	2回	浦本村間脇	9回	寺島	4回
	大和川	5	中宿	8	須沢	18
	小泊	6	浦本	11	寺地	3
	能生	16	梶屋敷	18	田海	2
	木ノ浦	9	田伏	5	青海	78
	鬼舞	23	押上	3	歌	2
	鬼伏	15	糸魚川	116	市振	25

④『西頸城郡誌』による幕末頃の糸魚川町の船持ち・11軒 昭和5年(1930)

相沢源兵衛	9艘	猪股八郎右衛門	3艘	寺崎四兵衛	2艘
池原平左衛門	6艘	多田嘉兵衛	3艘	井合喜左衛門	1艘
寺崎伊右衛門	6艘	中村又右衛門	3艘	松田曾五右衛門	1艘
山本勘四郎	4艘	杉本喜右衛門	2艘	計	40艘

⑤文久三年(1863)の『糸魚川町並図』

『加賀の井(小林家)文書』

廻船と記載のある家…31軒ある ※詳細は第四回歴史講座で紹介します

※ほかに『県史資料編』に越佐の廻船の記録がある廻船問屋

江差港関川家・同甲屋・青森野辺地港・茨城那珂湊南部屋・浜田外ノ浦港清水屋
佐渡小木港谷屋・越後尼瀬港熊木屋(尼瀬は出雲崎の西隣)

1.1 代表的な廻船業者の例

A 鬼舞 伊藤助右衛門家(鞍屋)…県内でも屈指の大規模北前船主

*江戸時代中期(18世紀前半)から廻船所有⇒後期(19世紀中頃)に急速に廻船数を増やす

*享和年間～文化年間(1801~1816) 9人乗弁財船3艘所有

*嘉永5年(1852) 和船9艘所有

江戸時代後期の伊藤家廻船…越後と瀬戸内・畿内の交易が中心

主な取り扱い商品…越後の米・地元の干鰯・砂糖・塩・蠟・綿

*明治初期…江戸後期と同じ商い

1880年代に北海道の魚肥を中心に商い、新潟県産米を北海道で販売する

*明治26年(1893) 小樽に本社を置き精米業開始…支店 新潟・鬼舞・神戸

北海道の米穀・海産物商として新潟の米穀商や本州各地の肥料商と取引する

*明治37年(1904) 小樽の本社閉鎖⇒海運業から撤退

☆伊藤家住宅 国重要文化財建造物 平成30年12月25日 明治20年頃の建築

B 糸魚川大町 相沢家（大野屋）…相沢玄伯家（医者）の分家

- * 5代源右衛門 文化4年(1807)大坂で200石5人乗船を購入…廻船業開業
 - * 8代源兵衛 廻船業の頂点 万延元年(1860)9艘所有 明治13年(1880)没
 - * 10代キヨ 8代源兵衛の妻・9代充太郎の姉 明治20年2月(1887)廻船業廃業
- ※詳細は第2回・第3回歴史講座で紹介します

C 青海 斉藤家（内川屋）

- * 6代太治右衛門 1750年前後から廻船業を始める（寛延～宝暦頃）
- * 11代太治右衛門 5艘の北前船と造り酒屋を経営 ※弘化2年(1845)没
- * 12代太治右衛門 嘉永2年(1849)4月 富山藩に6千両を融資する⇒返済されず
- * 13代斉藤廣吉 明治15年(1882)廻船業廃業（6千両の融資が重荷）

青海村を引き払う⇒早川の宮平村へ

※他に青海町の廻船業…豊蔵屋渡辺家（7艘）室屋富岡家（4艘）

1.2 北前船の終焉…明治10年代中頃から衰退する

[衰退の原因]

- 1)より大量に、より速く運べる手段の登場…汽船・鉄道
- 2)買積のうまみがなくなる…電信の発達で価格差利用ができなくなる
売れ残り商品の増加⇒利潤の低下
- 3)外国産の安価な農作物の輸入（綿・藍・タバコ）
明治20年頃からインド綿花大量輸入⇒国産綿、全く生産されなくなる
化学肥料の使用⇒魚肥（鯨ノ粕など）の需要がなくなる

※参考資料

新潟・兵庫連携企画展図録 『北前船』2015年

北前船の里資料館 『日本海の商船 北前船とそのふる里』

加賀市教育委員会 『北前船の遺産』

「越後・佐渡の北前船主—近代新潟県の産業化と海運」2015年 慶応大 中西聡 先生

北前船展リレー講演会 「北前船と頸城の浦・湊」 2015年 新潟大 原 直史先生

能生ふるさとサークル 『備後尾道石工の石造物と能生地区の廻船』2005年

復元日本史大観4『船』 世界文化社 1988

放送大学公開講演会 「北前船の商業活動と廻船問屋」2024年 横木剛先生

ジオパーク歴史講座2017「古文書からわかる海の道」 吉田 信夫

糸魚川市文化財指定記念講演会『前田出雲守 金子借用証』2018年 吉田 信夫

翡翠シンポジウム参考資料「北前船と廻船問屋」1988年 吉田 信夫